

---

# 傷

戸山羅花

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

傷

### 【著者名】

N1555P

### 【作者名】

戸山羅花

### 【あらすじ】

俺と美崎が初めて出会った頃。あの時は周りがどうでも良かった

.....

「うあー……終わった……俺の中で、今、人生が終わった……」

「何アホなこと言つてんのよ」

隣にいる美崎みさきがい、

「だつてお前、テストが終わつたんだぜ？ こんなにいいことはないだろ」

「だからってだらけすぎよ」

そう言つて俺の頭を叩く。

「つて」

「ほら。早く帰りましょ」

「あ？ ああ、そうだなー」

さつさと準備を終えて帰る美崎を追つて教室を出る。

俺と美崎は小学からの幼馴染で、中学一年になつた今でも続いている。

「…………」

「どうしたの？」

難しい顔でもしていたのか、そう聞いてきた。

「ああ。ちつと昔のこと思い出しちゃつてさ」

「…………ああ」

残念なことに、俺と美崎が最初に知り合つたのは「孤児院」であった。

祖父や祖母もおらず、両親をいっぺんに失つた俺。

大規模な交通事故で奇跡的に生き残つた美崎。

「…………あの時つてさ、周りがどうでもよくて、ずっと泣いていたよな。お前」

「……そうね」

俺と美崎はほぼ同時に入ってきたが、医師の懸命なカウンセリングのおかげか、なんとか踏ん切りのついた俺と、未だに親を失ったショックから立ち直れなかつた美崎。

「それで、あんまりいつまでも暗いまだつたから友達も出来なくて……」

あの頃の後悔からか、唇を噛んで言つ美崎。

「それで、ずっと一人だと思つていたけど……。あんたがいてくれた」

「ま、今となつちや恥ずかしい限りだがな」

「それでも良かつたのよ。……あの時は本当に一人だつたからさ」泣きそうになるのを悟られないようにするためか、また違つた理由からか、こちらに目を向けずに言つ。

「そつか……」

小さい頃の俺達には余りに酷な災い。故に美崎は未だに引きずつてゐる。

「ダメだなあ……。私は未だに引きずつてて……」

「いいんだよ。ゆつくりでも抜け出せば」

「……だよね」

「そう。一番大事なのは、それをどれだけ軽いものにできるのか。押しつぶされちゃだめだけど、それを忘れてもいけないことだと思うぜ?」

「あんたにしてはいい意見ね」

「だろ?」

二人して笑いあう。

「ん! じゃあ今日はどつか行こうかな!」

「なんで! ?」

「いいじゃない。あんたも来なさいよ」

「巻き込むな!」

そんな風に話しながら夕焼けの街を走る。

大切なものの当たり前のことでもあると思つんだよな。

「なにやつてんのよ！　早くしなや！」

「おう！」

先をいく美崎に返事をする。

こんな日々はこれからもずっと続いていくだらう……  
あいつが、自分の過去を乗り越えるまで……

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1555p/>

---

傷

2010年11月27日02時55分発行